

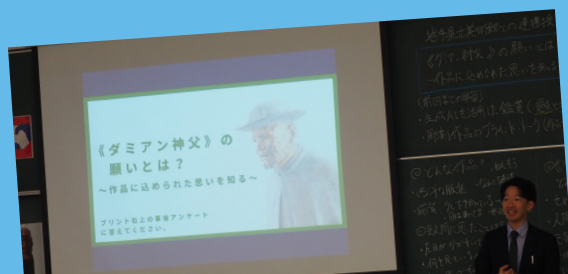
光村ポケット

中学校 美術

美術館と連携した 鑑賞の授業②

実践者：佐藤 陽先生（岩手大学教育学部附属中学校）

協力者：佐々木倫生先生（岩手県立美術館）



今回の「光村ポケット」では、
岩手県立美術館から作品資料や指導案の提供を受け、
同館と連携して行われた鑑賞の授業の様子を紹介します。

題材名

「ダミアン神父」 の願いとは？

2年／全3時間のうち1時間
絵画や彫刻など／鑑賞



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中！
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「ダミアン神父」の願いとは？

実践者：佐藤 陽先生（岩手大学教育学部附属中学校） 協力者：佐々木倫生先生（岩手県立美術館）

題材のねらい

実践校の近隣にある、岩手県立美術館と協力して行われた授業です。所蔵作品を題材に、対話による鑑賞を行います。前時までに同館所蔵の絵画作品の鑑賞を行ってきましたが、本時では彫刻作品の鑑賞を行います。鑑賞を通して作品の技法や素材、文化的背景への関心を喚起するとともに、自分の経験とのつながりを考え、他者と伝え合いながら対話する力を育てることをねらいとしました。

準備物

- 教師 教科書、ワークシート、作品を映すモニターなど
- 生徒 教科書、タブレット端末

活動の流れ 2年／全3時間のうち1時間／絵や彫刻など／B鑑賞（1）ア（ア）

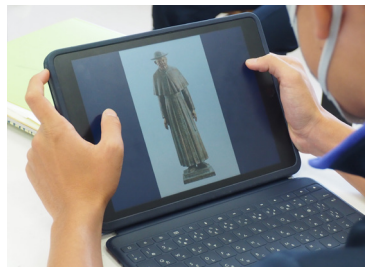
時	学習活動	指導の手だて
1	● 3～4人のグループで作品「ダミアン神父」を鑑賞する。 ● 作品から感じ取ったことや疑問をワークシートに記入し、全体で共有する。 ● 作品が制作された背景について知り、ダミアン神父が願ったことについて考える。	● 身体的なブラインドトークで、作品の動勢への理解を深めさせる ● さまざまな角度からの作品写真を用意して鑑賞させる。
	● 生成AIを活用しながら、ダミアン神父が願った未来のイメージを絵で表現する。 ● 生成した画像と、プロンプトを全体で共有する。	● 歴史上の出来事、美術史の情報などを交えて解説する。 ● 「ダミアン神父の視線の先に何があるのか」を問う。
	● 作者の舟越保武について知り、振り返りを記入する。	● ダミアン神父についての情報を踏まえて、作品の写真を再度よく鑑賞しながら考えるように促す。 ● 短い文でプロンプトを入力し、イメージに近づくまで生成を繰り返すように促す。
		● 事後アンケートを用意し、回答させる。

アイデア1 身体的なブラインドトークで鑑賞する

ブラインドトークは、グループの一人が目隠しをし、他の人が作品の特徴や情報を伝えたり、目隠し役が質問をしたりしながら鑑賞する活動です。この授業では、ブラインドトークを身体を用いて行う形に発展させ、人物の彫刻作品の鑑賞に応用しました。グループのうち一人は作品を見ず、残りの2～3人が伝えた情報をもとに、作品と同じポーズをとります。作品を見ていない相手に形を伝えるため、生徒たちは自然と作品を細かく観察するようになります。

この授業では、出題側の生徒から「もっと右に傾いて」「猫背にして」「もう少し虚ろな表情で…あ、でもそこまで陰しい顔ではないかも」など、作品「ダミアン神父」の重要なポイントを突く発言が多数出ました。

いちばん左の生徒が目隠し役。背中や立ち方などを細かく指示することを通して、生徒の鑑賞が深まります。



美術館の協力を得て、さまざまな角度から撮影された作品写真を用意しました。彫刻作品の動勢をじっくりと鑑賞することができます。



アイデア2 歴史の情報を交えて解説する

対話による鑑賞の授業では、生徒の発言を手がかりに作品の意味を生成していきます。しかし、作品の背景を無視して進めると、作品の本質から離れた議論に終始するおそれがあります。そこで本授業では、まずブラインドトークによる鑑賞を行い、生徒の疑問点を共有したうえで、作品のモチーフである実在の人物・ダミアン神父について解説します。歴史的な脈を踏まえることで、生徒は作品の造形に込められた意味をより深く考察できるようになります。



ダミアン神父 ブロンズ 高さ199cm
1975年 岩手県立美術館蔵
舟越保武 [1912～2002 岩手県出身]

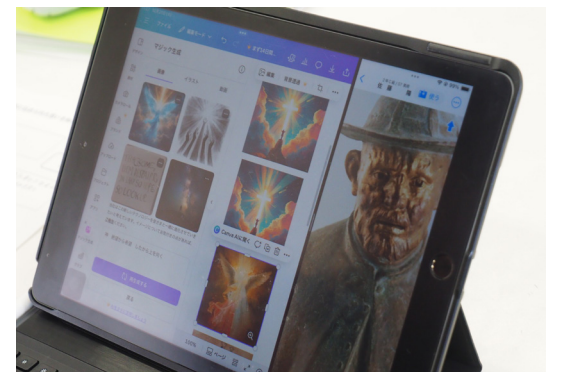
TIPS 舟越保武「ダミアン神父」について

ベルギー出身のダミアン神父（1840～89）は、1873年にハンセン病患者の収容地であるハワイのモロカイ島へ自ら志願して赴任しました。この病に療法がなかった当時、赴任は死を意味しました。彼は患者に寄り添い布教を続けましたが、非患者である自身と患者とは隔たりがありました。悩み続けた彼も1885年に同じ病にかかり、改めて患者に神の言葉を伝え続けました。数年後、彼はこの島で生涯を閉じました。彫刻家・舟越保武はこの作品をつくる約10年前に、病に冒されたダミアン神父の写真に出会います。彼はダミアン神父の崇高な人間愛を感じ取り、それを作品に刻みました。

アイデア3 生成AIを活用する

ダミアン神父の背景を踏まえたうえで、クラス全員で「ダミアン神父が願った未来」について考えます。手がかりとして生成AIを活用しました。単に自分のイメージを文章で表すよりも、プロンプトを入力して画像を生成することで、自分の言葉がどのように受け取られるかを視覚的に確認できます。こうした過程を経ることで、鑑賞を通して湧いた生徒の思いがより鋭く、具体的な表現へと磨かれていきます。

生成AI使用時のポイントは、長文ではなく単語や短いフレーズで入力することです。本授業では「光の粒」「安らかな表情の人々」「活気のある市場」など、イメージが伝わりやすい語句に言葉を研ぎ澄ます姿が見られました。



作品を鑑賞しながら、ダミアン神父の願いを想像し、生成AIでイメージ画像を出力している様子。

美術館との連携授業③

～作品に込められた思いを知る～

組 番 氏名

1. この作品から感じ取ったことや疑問は何か？

表情がない 丸眼鏡 猫背
服装は 11月の 20℃ 西洋・ほろ

2. この作品の人物はどんなことを実現したいと願っていたのか？

ハンセン病を治す 宗教の力
→ 天啓の病に打ち勝つことはできない
→ 神の力を信じて 神の力を信じて
→ 神の力を信じて 神の力を信じて
→ 神の力を信じて 神の力を信じて

3. 願っていた未来を生成AIで絵にしてみましょう。

スクリーンショットを撮ってプロンプトの記録を残しておきましょう。

【生成AIに入力したプロンプト】

4. 振り返り「舟越保武が作品に込めた思いとは？」

ダミアン神父についてのスクリーンショットを撮って、後で作品を見直してわかる。今、安堵していい未来にも見える。 宗教の力に頼るイメージが通った。 こんどに神の力を見えるのが不思議に思える。 舟越さんはほんのり神父の像に思い入れがある。 有名な作品に似て、たぶんおなじいかなと思った。

TIPS ワークシートについて

授業の流れに沿って、ブラインドトークによる作品の鑑賞を踏まえた初発の感想や疑問点をメモしたり、ダミアン神父の願いについて考えて書いたりする欄を設けています。また、生成AIに入力したプロンプトを記録することで、自分の思考の流れを振り返ることができるように工夫しました。

授業を終えて

実践者：^{さとう しょう}佐藤 陽先生（岩手大学教育学部附属中学校）

本日の授業を通じて、生成 AI を活用した作品鑑賞の新たな可能性を実感しました。生徒たちは、作品の角度や素材の感触を想像しながら、多角的な視点で深く作品と向き合うことができました。AI によるイメージの生成を取り入れることで、従来の授業以上に思考の幅が広がり、作品の鑑賞を通して考えたことを自分の言葉で表現する力が育まれたと感じています。美術館から高精細な画像をはじめとした資料を提供していただいたことで、いろいろな角度から彫刻作品を鑑賞することができたのもポイントです。気に入った角度を探して話し合うなど、対話による鑑賞のきっかけになりました。



協力者：^{ささきのりお}佐々木 倫生先生（岩手県立美術館）

対話による鑑賞においては、作品の背景情報をどう伝えるかが重要なポイントです。本授業では、まず身体的なブラインド・トークを通じて作品そのものを深く観察させています。その上で、ダミアン神父のエピソードや舟越保武の制作背景といった「出来事レベル」の情報を丁寧に伝えるよう心掛けています。これらの情報を、作品をさまざまな角度からじっくりと鑑賞できる環境の中で伝えることで、造形や素材といった作品の基本的な要素に意識を向けさせつつ、そこから想像を広げる余裕を生徒にもたせることができると考えています。



美術館との連携について

学校と美術館をつなぐ授業のデザイン

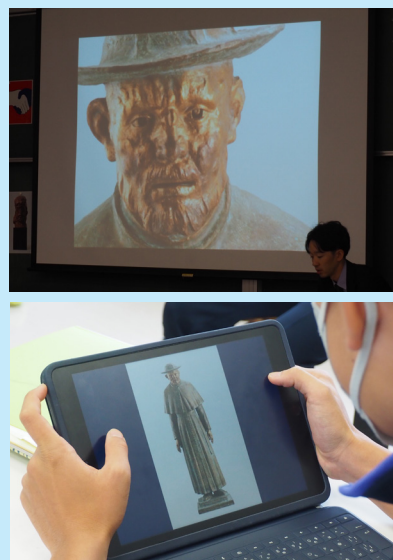
美術館には学校で活用できる資源が豊富にあります。美術館では作品解説カードなどを通じて作品情報を得られるため、美術の授業の教材として活用できます。また、岩手県立美術館が実施する鑑賞教育研修では学芸員による作品解説を学ぶことができ、それを授業で活用している先生方もいます。作品は美術館 HP から作品画像を取得することができます。その作品を活用したファシリテーションと一緒に考えながら、授業に役立ててもらっています。

本実践では、授業後も美術館と生徒がつながることを意識して、ハーバード大学教育大学院 Project Zero が開発した Artful Thinking の思考ルーチン「See-Think-Wonder」を導入しました。これは、一つの作品を前にして「See（何が**見える**か）→ Think（それをどう**思う**か）→ Wonder（**疑問に思う**ことは何か）」の順で思考を深めていく手法です。これは、世界の美術館で活用されている鑑賞方法です。

See-Think の段階では、身体的なブラインド・トークを取り入れた鑑賞が非常に効果的でした。Wonder の段階では「ダミアン神父の視線の先には何があるのか」という問いから対話が深まりました。さらに、佐藤先生による作品の歴史的文脈やダミアン神父の葛藤に関する解説が、生徒の理解をいっそう促しました。生徒たちは画像生成を用いて神父の未来を表現し、苦しみのある希望を共有しました。授業後には「作品への見方が深まった。さらに調べたい。美術館で実物をもっとよく見たい」と述べる生徒もいました。

このように、学校と美術館をつなぐ授業デザインは、作品と主体的に向き合い、自ら問いを立てる自立した鑑賞者の育成につながります。

佐々木 倫生（岩手県立美術館）



さまざまな角度から撮影された高精細な作品を貸し出し、授業で活用された。大きく拡大して鑑賞したり、端末上で見たい角度から作品を鑑賞したりすることができる。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

